



南の光明

The Catholic Diocese of Naha Newsletter

今年の教区の目標

いのちの輝きは
聖性の光
救いの泉

〒902-0067 那覇市安里3-7-2
カトリック那覇教区本部
TEL.098-863-2020 FAX.098-863-8474
発行人 W.F.バートン司教 1部40円
<http://www.naha.catholic.jp/>

(1) 2024年11月1日 (毎月1日発行) カトリック那覇教区報 MINAMI NO KŌMYŌ 第792号 (11月号)



11月は死者の月です

カトリック教会では、十一月二日が「死者の日」とされていますが、この日だけでなく十一月全体を「死者の月」としています。お墓参りとか、亡くなった家族の方がたや司祭、修道会員、友人等を思い起こし、つなかりを確かめ、祈りを捧げることがよくおこなわれます。

巻頭に載せた写真は、与那原の丘に眠る終戦後最初の宣教師、フェリックス・レイ司教と、同僚のカプテン会士、バレンタイン神父とチャールズ神父のお墓です。私たちが信仰に導いてくださった先人に祈りを捧げるのに相応しい季節となりました。

ところで、なぜ教会はそんなに死のことを思い出させるのでしょうか？愛する人との別れや自分自身の場合に、死の事実は私たちの甘やかな気分を激しく揺さぶります。人は誰でも自分にとって大切な存在を失うと、その喪失感に打ちのめされますし、自分自身は静かに死を迎えたいという望みを抱いたりします。

教会には、人間が死んだ後で、罪の清めが必要な靈魂は煉獄での清めを受けないと天国にいけないが、生きていく人間の祈りとミサによってこの清めの期間が短くなるという考え方があります。死者の日はこのような発想にもとづいて、煉獄の死者のために祈る日という性格のものでした。

私たちが信仰を宣言するとき唱える「聖徒の交わり」とは、この世のわ

たしたちと天国の聖人と死者の魂とが神の生命と愛によって結ばれており、互いに助け合うということです。教会はこの交わりをよく認識し、キリストの初期から死者に対して深い敬愛の念を持ち続けてきました。そのために特にミサの中でかれらを記念し、そのほかにも死者のために祈りをささげてきたのです。

亡くなった人や死を思うとき、それは同時に生、いのち、生き方を思い考える時でもあります。死を迎えたとき、どのような生き方をしたのかが見えてきます。愛する故人を思い祈ると共に、今の自分のいのち、生き方を見つめる時でもあるといえるでしょう。

慈しみ深い御父が、人生の旅路を終えた人々を快く受け入れてくださいますように。別離の悲しみのうちにある私たちも、主イエス・キリストが約束された復活の希望に支えられ、あなたのもとに召された兄弟姉妹と共に、ひとつに集うことができますように。

有馬マテオ神父帰天

去る十月二十九日(火) 有馬神父様がお亡くなりになりました。

葬儀は以下の日程で執り行われます。
十一月三日(日) 午後四時から通夜。
十一月四日(月) 午後一時から葬儀ミサ、告別式。

場所…開南教会那覇市樋川一三三〇
☎〇九八八三三二一三〇三七
神父様のため、お祈りください。

2024 Catholic Korea Peace Forum

By: Fr. Joseph Bui-Awase Catholic Church

On October 16-21, I accompanied seven youths from Okinawa representing the different Parishes upon the invitation of Fr. Peter Kang of the Catholic Institute of Northeast Asia Peace (CINAP) who is working for the establishment of Peace and reconciliation in the region. Youth from the U.S., Korea and mainland Japan were also represented.

We attended the “2024 Catholic Korea Peace Forum” In Seoul and Paju (located in the north, one hour from Seoul) This Forum was also sponsored by the Korean Ministry of Culture, Sports and Tourism. As this was also an opportunity to reflect on the solidarity for Peacebuilding and the role of young people for Peace in northeast Asia.

We were divided into six groups and each group was composed of different nationalities. We discussed the difficult issues of the history of the Korean War as well as the current issues and difficulties facing Northeast Asia (South Korea, Japan, China and North Korea) including the responsibilities of the United States and United Nations.

For two days we stayed at the Catholic Church of Repentance and Atonement at Paju, Gyeonggi-do. This city is only two kilometers from the border that separates North and South Korea. The event culminated with the Holy Mass celebrated by Bishop Peter Lee Ki-Hoen.

This trip to Korea was a wonderful experience for all of us. We were deeply moved by the kind, gentle and wonderful people we encountered.



13th Gathering for Christ (GFC) at Koza Catholic Church



The talk of Bp. Edgar Gacutan of Sendai Diocese



A Concelebrated Mass



Song Rendition



Dance Rendition of Different Groups

2024年10月拡大司祭・助祭会議議事録

開催日時：2024年10月1日(火) 10:00～12:00 於・安里教区センター

1. 報告及び連絡事項：司会はフランシス神父が担当。

- ・アジジの聖フランシスコの祝日が近い為、ウェイン司教が、「平和の祈り」を唱えて開会した。
- ・前回(9月会議)の報告を新田が行い、承認された。
- ・出張、休暇、研修等の不在予定の報告が行われた。
 - －ブイ神父、8/19～10/3、休暇でベトナムへ。
 - －古川神父、9/24～10/6、休暇。
 - －ナビーン神父、9/24～10/24、休暇でインドへ。
 - －リカルド神父、10/1～29、休暇。
 - －ウェイン司教、クレーバー神父、津波古さん、長崎教会管区会議の為、10/23～24熊本へ。
- ・ボスコ神父から9月に札幌で行われた典礼担当者全国会議について報告が行われた。9/9～11日に札幌で開催、38名が参集し、フランシスコ教皇の使徒的書簡「わたしはせつに願っていた」をテーマに学んだ。また、各教区の現状を報告し合い、課題を話し合った。今後は、特に司祭のための典礼養成＝生きたキリストとの出会いの場を実現するために、典礼総則を深く学び、正しい仕方実践することを目指すことが報告された。
- ・クレーバー神父から、沖縄キリスト教協議会主催の「平和講演会」についてポスターが配られ、参加が呼びかけられた。
- ・マキシム神父から小祿で行われるアジジの聖フランシスコの帰天祭の案内と参加の呼びかけが行われた。
- ・サニー神父から、GFC(フィリピン人信徒の集い)について参加の呼びかけが行われた。今年は仙台教区のエドガル・ガクタン司教をお迎えして、10月26日(土)に、コザ教会を会場に行われることが報告された。10/27の主日のミサも、ガクタン司教が読谷教会で主式されることが報告された。
- ・10/19(土)、午後2時から、教区女性の会のミサと集いが「家族」をテーマに午後2時から行われることが、担当のフランシス神父から報告された。
- ・ウェイン司教から、プロライフ運動について報告が行われた。主に英語圏の、基地内に居住する信徒たちからいろいろと要望が寄せられているが、那覇教区としてのこれまでの取組等の案内を英語圏の信徒のためにして、それに協力いただく方向であることが報告された。
- ・その他、福岡教区で行われる青年大会への案内が届いているので、小教区の青年たちに呼びかけするよう要請が行われた。
- ・2025年の聖年について、教区の取組みについて報告と要請が行われた。教皇フランシスコがパチカンで12/24に開門式を行われるので、日本司教団が青年の巡礼団を企画するとの情報もあるが、まだ具体的な通知はない。那覇教区では、日本司教団の動きに合わせて12月29日(日)午後2時からウェイン司教が主式して開門式を開南教会で行えるよう日程を組みたい。そのため、小教区訪問が予定されているコザ教会に日程の調整依頼が行われた。
- ・10/16～10/20にかけて韓国で行われる青年大会に、ブイ神父が教区青年7人を引率して参加予定であることが報告された。

2. 審議事項

- ・11月の司祭会議について、宮古島平良教会を会場に行う予定であるので、準備状況について、主任のヨアキム神父からプログラム表が配られ、報告と要請が行われた。11/5(火)は14:30から司祭会議と晩の祈り。祈りの後、夕食と懇親会が行われる。11/6(水)は午前9時から合同でミサ。ミサ後は宮古島視察、午後3時解散のプログラムが報告され、了承を得た。
- ・司教との面会について、注意が促された。司教も多忙なスケジュールを抱えているので、予定外の突然の面会には対応できないこともあり、お互いに気まずい思いをする。最低限のマナーとして、前もってマーシーさんや教区事務所に連絡して、面会時間等の調整をするよう要請された。
- ・各小教区の財務運営について、ウェイン司教から要請が行われた。小教区のお金は、主任司祭に帰属するものではなく、教区の公的資金として、ウェイン司教の名義で保持・管理されている。小教区が設立された際に、その運営と資金管理は小教区に委ねるものとしているが、教区司教が全ての小教区の法的責任者であることに留意し、経常的ではない車の購入やその他大きな支出に関しては、司教と教区事務局長と前もって相談することが求められる。また、教会法の規定によれば、各小教区の財務運営は、経済問題評議会に諮り、その協力を得て執行されるべきであり、信徒との十分な話し合いによって、年次予算等は計画する必要がある。各小教区の予算・決算は、宗教法人全体で1つの会計として国に報告されている。決して勝手に変更して良いものではない。また、最近では宗教法人にたいして、税務を含め法務関係は厳しい目が向けられるので、教会運営については信徒と相談し、教区事務所に指導を仰いで、正しく対処して欲しい。
- ・小教区における積立金についても注意が促された。積立金は大きな出費に備えて積立しており、目的外の用途に使ってはいけない。また目的に合った使用にしても、計画的になさなければ、必ず破綻する。積立金の取り崩しは、前もって教区長と相談し、教区の承認を得なければいけないことに留意すべきであり、主任司祭の独断は許されていない。
- ・上記に関連して、近いうちに教会会計研修会を行うことが提案された。主任司祭、信徒代表と会計担当者の参加のもと小教区の会計に関する学びを共有し、共通理解のもと適切な運営を目指す。具体的なことは今後決めてゆく。
- ・これまで教区の墓がなく、教区司祭たちのお墓はそれぞれが希望して準備したりしておられるが、多くの教区では、信仰の礎として重要な祈りの場となる教区墓を設置しており、那覇教区でもそれを準備すべき時期に来ている。すでに安里の納骨堂の一部に教区司祭のための納骨壇は確保されているが、あらためて教区墓の設置を検討してはとの提案がなされた。審議の結果、教区墓が100年後、200年後の将来を生きる信仰者のために重要となることから、検討を進めることが了承された。
- ・マーシーさんから司教の予定が報告された。10/6(日)小祿教会公式訪問とバザー。10/20(日)、石垣教会公式訪問。
- ・押川司教から、『南の光明』誌に、帰天の月に当たる司祭たちの帰天年月日を掲載してはどうかとの提案があり、概ね了承され、編集委員会に一任された。

※次回司祭助祭拡大会議は11月5日(火)午後2時半から、宮古島みつば幼稚園ホールで開催される。



死者のために 祈ることが大切

ピーター・チャネル・チェ神父
コザ教会 主任司祭

すが、それはすべてが終わることではなくて、私たちの霊魂は新しい状態で生きます。教会の教えによると、人は死んだ後に、三つの場所です。それは天国と煉獄、そして地獄です。誰が天国に、あるいは煉獄に、そして地獄に行くのかは、



生者と死者とのつながりこそ人間の文化だと言えます。それだけではありません。単なるつながり以上のもの、交わりという信仰と愛の文化にもなりました。たとえば、仏壇、先祖の祭壇、聖人たちの祭壇、諸聖人の通功などを大切にしていきます。

が霊的に交わるということですが、それだけではありません。私たちが生み育ててくださった人々、学問、信仰、色々なことを私たちに教えてくださった人々、教会と信仰に捧げてくださった人々に、感謝をささげて祈り交わることにより、先祖から教会の信仰という遺産を受け継ぐことができます。そのためにも先祖に倣って先祖を模範として生きることができるよう祈りましょう。

と共に神様に賛美と感謝を捧げ、先祖とつながって生きることができ、祈ること以上に死者のために助けとなり役に立つことはありません。死者のために花輪を捧げても、花は萎れますが、祈りは決して萎れません。亡くなった人の魂のために祈りを捧げるなら、それは永遠に受け入れられるでしょう。祈りはいつまでも価値があります。忙しい現代において死者の事を忘れてしまいがちな私たちが、一年の中のひと月だけでも死者のことを心に留め、思い巡らす月としてカトリック教会では、十一月は死者の月と定めています。その間にミサと祈りを大切にしています。そして、十一月一日から八日までカトリック教会の墓地と納骨堂を訪問し、許しの秘跡を受け、「信仰宣言」と「主の祈り」、「アヴェ・マリア」そして教皇様の意向を祈ることで、全免償が受けることができます。この全免償は私たちの愛する亡くなった方々に捧げられます。

人間であるわたしたちは皆死を恐れると思います。大変な苦しみ、悲しみ、病氣などにかかっている人々も癒されたいです。死にたくないでしょう。葬儀のときにも、人々はその人の人生を思い返して、悲しみ、そして自分の人生を振り返ってしまいます。

全くわかりません。ですから、良い状態で生きるように努めることが大切だと思います。

人間の歴史が始まってから今日まで、私たちの先祖はどんな人種や民族であれ、様々な地域で、何よりも共同体の一員として、それぞれの時代を生きました。その中で、生者は亡くなられた死者のために、命日や記念日などにお祈りを捧げてきました。このように各地の共同体の習慣は、次第に一つにつながって、広く人間の文化として育っていきました。この

この世の単なる共同体を超えて、生者と死者が互いにつながり交わり、神秘的な共同体の一員として生きていけると言えます。

ミサは最高の祈りです。ミサのおかげで、私たちは神様との交わり、天上の教会の皆さんとの交わり、地上の教会の皆さんとの交わり、天使、聖人たちの交わり、死者との交わりが得られます。ですから私たちはミサの中でいつも死者のために祈りを捧げています。特に、死者のミサでは、先祖を捧げることだけではなく、先祖

皆さん、この十一月「死者の月」にあたり、私たちの先祖や、亡くなった親戚、友人、知人、特に那覇教区のために働いてくださった司教様、司祭方、修道者、シスターや信徒の皆様のために祈りを捧げましょう。

周知のように、人間の体と霊魂は繋がっています。しかし、人は死んだ後に、霊魂と体は分かれま

たはありません。

祈りを通して生者と死者

祈りましょう。

祈りましょう。

2024年カトリック韓国平和フォーラム

韓国国際平和フォーラムへ沖縄から参加したブイ神父と7名の青年たちの感想が寄せられました。紙面の都合上、すべてを1回で掲載できませんので、今回は団長のブイ神父と泡瀬の渡慶次さん、名護教会の崎山さんの原稿です。

私は、カトリック北東アジア平和研究所（CINAP）の責任者である韓国人司祭、ピーター・カン神父に招待されました。CINAPは、この地域の平和と和解の確立を研究し、取り組むことに尽力しています。

ウェイン司教の許可を得て、那覇教区から7人の沖縄の若者と一緒に韓国を訪れ、10月16日から21日まで韓国の坡州とソウルで開催される「2024年カトリック韓国平和フォーラム」のプログラムに参加しました。今年のフォーラムは、韓国文化体育観光省が後援していて、平和構築のための連帯と、北東アジアにおける韓国、アメリカ、沖縄、日本の若者の平和の役割について考える機会となりました。

今回は、日本人、アメリカ人、韓国人を含む8～9人ずつの6つのグループに分かれ、朝鮮戦争の過去の難問と北東アジア諸国（日本、韓国、中国、北朝鮮、そして米国と国連の責任）の現在の困難について話し合いました。翌日、私たちの6つのグループは、原子力と石炭火力発電をなくすための闘いの場、大田刑務所（韓国の日本統治時代）、非武装地帯（DMZ）など、韓国の6つの異なる敏感な場所を訪問し、巡礼しました。

また、韓国が直面している問題は、私たち沖縄が直面している問題と多少似ていることに気づきました。たとえば、軍事基地の建設などにより海洋と自然の生態系が破壊される問題などです。

最初の2日間は、京畿道坡州市の「悔い改めと償いのカトリック教会」に滞在しました。この都市は、北朝鮮と韓国を隔てる国境からわずか2キロのところにあります。その後、私たちは他の活動のためにソウルへ移動しました。

私たちの巡礼の旅は、平和の象徴として建てられたJSA（共同警戒区域）教会でのベーター・リー・キフン名誉司教による主日ミサで終わりました。司教の説教では、「私たちは平和の希望であり、未来を創る者です」ということを思い出させ、私たちを励ましました。

私と沖縄からの7人の若者は、全員初めて韓国を訪れました。この韓国への旅は私たち全員にとって素晴らしい経験でした。出会った親切で優しくて素晴らしい人々に深く感動しました。私たちは世界の平和と両朝鮮の平和のために祈り続けます。どうもありがとうございました。（泡瀬教会：ブイ神父）

私は今回、韓国で開催された2024 Catholic Korea Peace Forumに参加しました。この平和フォーラムでは、韓国、日本、アメリカなどの若者が集まり、平和について学ぶ国際的なイベントが行われました。私は沖縄代表としてこのイベントに参加し、初めての韓国での経験はすべてが貴重で刺激的でした。

2日目には、Peace Gamesが行われ、参加者は韓国、中国、日本、アメリカ、北朝鮮、WPSなどの6つのグループにランダムに分かれました。各グループで、国連安保理決議第1325号に基づく地域行動計画の策定について議論しました。私は日本の立場で参加し、日本の歴史的な過ちについて再認識する機会となりました。ただし、議論は英語と韓国語で行われたため、日本語しか話せない私は十分に理解できない部分が多く、通訳を通じてもその内容の深さに圧倒されました。それでも多くを学び、貴重な経験となりました。

3日目にはグループごとに韓国の歴史に関連する場所を訪れました。私のグループはサンチョクという地域を訪れ、原子力発電所や石炭火力発電所に関する問題を学びました。そこで感じたのは、韓国と日本が抱える環境問題が非常に似ているということです。特に、発電所が抱える安全性や環境問題、そして地域住民に対する政府の対応に共通点が多く見られました。

4日目には、各グループが学んだことをプレゼンテーションで発表しました。限られた時間での作業でしたが、どのグループも素晴らしい発表を行い、韓国の歴史について新しい視点で学ぶことができました。

5日目には、韓国の基地内にある教会でミサに参加し、一般の人が入れない場所で貴重な体験をしました。また、その中にある資料館で、北朝鮮と韓国の歴史についても学ぶことができ、衝撃的な内容も多くありましたがとても興味深かったです。（6頁へ続く）

このフォーラムを通じて、毎日が忙しいスケジュールの中でしたが、1日の終わりにはみんなでご飯に行き、参加者たちと深い絆を築くことができ、最終日にはみんなで涙するほどの素晴らしい仲間ができました。私にとっての平和とは、嬉しいことや悲しいこと、さまざまな感情を共有できる仲間たちと一緒にいることが、できている状況なんじゃないかなと感じました。言語の壁や難しい問題もありましたが、言葉に表せないほど素晴らしいイベントでした。また機会があればぜひ参加したいと思います。(泡瀬教会：がしゅ 渡慶次)

今回のフォーラムに参加するにあたって最初は言葉が通じるか不安がありすごく緊張しましたが、参加者の皆さんがすごく優しく、すぐに言語の壁を超えて仲良くなることができました。

1 番印象に残ったことはフィールドトリップでソソリリに行きサード問題について学んだ事です。ソソリリに行きサード問題を知る内に沖縄の問題とすごく似ていて心が痛くなりました。私たちができる事は小さい事かもしれませんが、お祈りする事も大事な事だと改めて感じました。また、各国の問題、朝鮮半島の南北問題についても改めて考えさせられて胸が痛くなると同時に、絶対に戦争や争いはダメだと思いました。

観光はあまりできませんでしたが、みんなで食べたご飯や、空港での買い物もすごく楽しめました。また参加したいです。(名護教会：崎山美那代)

たて軸よこ軸
祈りの力

具志川カトリック教会 安次峰 裕

「祈り」と言う言葉を聞くと私たちは何を思うのでしょうか？ 一般的に考えると実際に叶ったことがないから興味がない、何だか宗教じみていてあまり好きではないと言う人もいるかも知れません。

実際の「祈り」とは、どう言ったことなのでしょう？ 私たちひとりひとりの思考は意識的にも無意識的にも人に影響を与えているのかも知れません。影響を与え合っている私たちの思考、いつも良い影響を与えたいものですがなかなかそうもいきません。

例えば職場や学校でどうしても分からないことがあつて上司もしくは先生に聞きたい時「今声をかけないでほしい」といった雰囲気のでいて声をかけ辛かったり、人に挨拶をしても返事が返ってこなかったり。それでも前向きに物ごとをこらえる「プラス思考」を引き出してくれる力「祈り」にはあると私は思うのです。

ではそもそも「祈り」は私たちがどのような関わりを持っているのでしょうか？

カトリック聖書によるとルカ福音書一章37節に、「神にできないことは何一つない」と神に遣わされた天使がマリアに答えるところがあります。祈りを聞いて応えられる神の力を現しています。カトリックの信仰において、祈りは神の力を引き寄せるものとされています。

近年、紛争、感染症、貧困、領土問題など、世界の情勢は深刻化しています。私たちの日常生活においても様々な事件や犯罪に脅かされています。難しい問題に直面したり、病気になって身体も心も弱っている時、今まで犯した罪に対して悔い改め許しを求めるとき、愛する家族や人たちの為、そして臨終を迎える時も強い信仰を持って祈り続ければ必ず神は答えてくださると信じています。

「祈り」は神と私たちを繋ぐ唯一の交信手段である。

堅信おめでとうございます

10月20日、司教様の公式訪問で、3人(小学5年)の方が堅信の秘跡を頂きました。



石垣教会

- ・ミカエラ 小寺 彩加
- ・ヨゼフ 小浜 康気
- ・マザーテレサ 神保 文香



2024年度

教区女性の会からお知らせ

那覇教区女性の会 定例研修会

11月9日(土) 13:00より
安里教会 聖堂
講話: シスター鈴木秀子

那覇教区女性の会 召命のミサ

12月7日(土) 14:00
司式: フランシス・ティン神父

追悼

故新垣壬敏さんに思いを
はせて

聖マリアの汚れなき御心の

フランシスコ姉妹会

偉大な人物は、生前より死後に輝くものです。私が初めて彼にお会いしたのは、今から六十年以上も前にさかのぼります。

それは彼が結成した十人足らずの小さな聖歌隊に誘われた時でした。実はこの聖歌隊が現在に続く那覇教区の聖歌隊カンタ・カトリカの前身です。当時は、後に司教になられたレイ神父様による沖縄宣教の壮大な構想が実現に向かって進められていた時です。アメリカからカプチン会の神父たちが次々と来沖し、精力的に働いたおかげで、宣教開始わずか十年で、沖縄の主な地域に教会が建ち、信徒の数も爆発的に増え、宣教は順調に成果を収めていきました。

壬敏さんは、発展してゆく沖縄の教会に聖歌隊の必要を切実に感じたのだと思います。彼はまず中心となるであろう開南教会に各教会から若者を集め活動を始めていたのです。先見の明の鋭いレイ神父様の構想は、教会建築のみならず、救済、医療、

教育など多岐の分野に亘っていましたが、将来、司祭、修道者、指導者になる人材育成も大きな柱の一つでした。それで、レイ神父様はリーダーシップと音楽的才能に長けた壬敏さんを東京の音大に送り出したのでした。

その後は長期に亘って彼との交流は無かったのですが、時々自作の曲を送って下さっていたので、彼が頑張っている様子がよくわかりました。そんなある日、大きな喜びがありました。



故新垣壬敏氏

それは今から四十五年前にさかのぼります。以前、日本の教会で使われていた黒表紙の小さな聖歌集から現在の典札聖歌集に切り替えられた時、その中に彼の曲が採用されていたのです。居並ぶ作詞家、作曲家の中に壬敏さんの名前を見つけた時の感動は大きいものでした。早速調べてみると十一曲もあり、最も愛されている「ごらんよ空の鳥」も入っていたのです。ほんとうにワクワクしました。もち

ろんのことですが、その後も彼の作曲活動は続けられていました。久しぶりに突然、彼から分厚い封筒が届きました。何とそれは、「沖縄の使徒レイ司教に捧げる」という表題の付けられた琉球音階によるミサ曲でした。その時既に「聖マリアの汚れなき御心のフランシスコ姉妹会」のシスターになっていた私は、胸を躍らせました。レイ司教様は私たちの修道会の創立者であり、姉妹たちの愛するお父さんです。

ですから私たちは、祝日には必ずこの曲を歌っていました。しかし、その後ミサ典札の言葉が改訂になり、このミサ曲も使えなくなりました。とても残念なことでしたが、この曲は壬敏さんのレイ司教様への感謝の心とともに、レイ司教様の偉業をも記念して、未永く残されていくと思います。壬敏さんの生涯を思い巡らしてみると、見えてくるものがあります。それは、彼の心の中に常に息づいていたふるさと沖縄への思いです。彼の作品の中にはオペラ「阿麻和利」「チエロのためのトウバラーマ」「風のユンタ」など、沖縄を思わせる力作があります。他に慰霊の日に必ず歌われる「ヌチドウ宝」や琉球音階のミサ曲などが、沖縄を愛する彼の心を証ししています。作曲を通してだけでなく、彼の沖縄愛を垣間見せてくれた出来事がいくつかあります。

それは私たちの修道会が創立五十周年を迎えた年のある日のこと、壬敏さんは創立記念にと、東京からストッ付き、足鍵盤付き、オルガンを調律師同伴で、トラックで届けてきたのです。私たちはびびり仰天、夢のような喜びでした。また近年ですが、修道召命がなく、本土でも閉鎖する修道院が出始めたころ、彼がまず心配したことは、沖縄の修道会のことでした。「召命活動は全国に広げなさい」「パンフレットは明るく喜びに満ちたものにしなさい」などなど、長々と指導助言の手紙を送ってきました。なんと有難いことでしょうか。彼の沖縄を思う心は、沖縄の修道会を思うことに繋がっていたのです。作曲家として名を挙げられるにつれ彼の働きは広がり、大学、修道会、教会などで教え、さらにカトリックの枠を超えてプロテスタントの諸教会でも講話を頼まれるようになっていきましたから、多忙だったに違いありません。にも拘わらず二〇〇曲にも上る曲を作ったといわれます。そのうち、一五〇曲は賛歌や詩編に曲を付けたといいま

すから、彼の日常は神様への賛美に満たされていたのではないのでしょうか。「マラナタ」「キリストはぶどうの木」「聞かせてください」「いつも喜んでいなさい」など数々の名曲を含む作品はいろいろな形の曲集となり、また数々のCDとなって世に出されました。彼の深い信仰からあふれ出たこれらの作品は、なんと多くの人々の心を癒し、慰め、励ましたことでしょうか。

そしてこれからも人々の心の糧となっていくに違いありません。他にも教会音楽に関する著作ばかりでなく、晩年には彼の信仰表明とも思われる霊性を、短歌で表現した「神詠短歌」を出版しています。私は、壬敏さんの働きと業績を垣間見てもきましたが、そこに見えてきたのは、誠実に信仰を貫き、生涯わき目もふらず、神さまに向かって突き進んだ彼の姿です。

彼は聖書のたとえ話の五タレント預かったしもべのように、二倍に増やしたタレントを携えて、喜んで主の面前に立ったのではないのでしょうか。そして、主は言われたに違いありません。「よくやった！良い僕だ。わたしと喜びを共にしなさい。」

壬敏さん、豊かな遺産を残してくださってありがとうございます。

(シスタールチア中村睦子)

パルコシティ海岸地域ビーチクリーン 2024年11月16日(土)

(Parco City seashore area beach clean up) ■ 集合時間 午前 : 9:00

■ 午前 : 9:30 ~ 10:30 ビーチクリーン ■ 午前 : 11:00 現地解散

持ち物 : 帽子 (熱中症対策)、長袖・長ズボン (怪我と日焼けの防止)、
雨靴または濡れてもよい靴 (安全のためビーチサンダル禁止)、
タオルや日焼け止めは必要に応じて各自で準備、自分の水筒、
トンブ (もってるなら : ゴミ拾い用)



計 報

◆ 開南教会

幼きイエスのテレジア 登野城 千津子 様
2024年10月4日帰天 享年70
カタリナ・ラブレ 渡嘉敷 秀子 様
2024年10月20日帰天 享年94
マリア 外間 亮子 様
2024年10月27日帰天 享年81
アンナ 松茂良 ヨシ 様
2024年10月28日帰天 享年102

◆ 泡瀬教会

アントニオ 桑江 常吉 様
2024年10月12日帰天 享年81



那覇教区子どもと 女性の権利を擁護するデスク



相談窓口
☎098-863-2020
火・水・木
13:00~17:00



NPO 法人ぶどう園の会

訪問看護ステーション クララ

TEL&FAX:098-937-5001
住所 沖縄市泡瀬2丁目37-15
・基本受付 月曜日~金曜日(申込、相談など)
・営業時間 8:30~17:30
・営業日 24時間365日(緊急対応含む)



葬祭の 「やすらい企画」

私たちは故人とご遺族の意向
を最優先に考えます。何でもご
相談下さい。

那覇市首里烏堀町4-57-3
TEL&FAX:098-885-8205
<http://w1.nirai.ne.jp/yasurai>
E-mail:yasurai@nirai.ne.jp

24時間
受付

24時間
受付

てんごく
☎098-853-1059

ひが たかしげ
(実務担当) 比嘉 高茂



~ご遺族の心をもって奉仕する~
そうてんしゃ

葬 典 社

*創業30数余年・・・。
*皆様に支えられ「感謝」とともに人生を閉じるための
お手伝いをさせていただいております。
*ご質問、ご相談、24時間、いつでもお電話下さい。
「ゆうなの会」会員募集中です。